

市民との意見交換会「with コロナの丹波市における各種課題」開催報告

丹波市議会では「with コロナの丹波市における各種課題」をテーマとし、次の市内7会場において、それぞれ4分野に分かれて市民との意見交換会を開催し、述べ148名の参加を得た。

- ・ 5月15日(月)氷上住民センター、柏原住民センター
- ・ 5月16日(火)山南住民センター、青垣住民センター
- ・ 5月17日(水)ライフピアいちじま
- ・ 5月18日(木)ハートフルかすが
- ・ 5月21日(日)市民プラザ

以下は、各分野における意見交換の内容をとりまとめた要旨である。

1 防災・地域連携

コロナ禍で活動が制約され、感染症対策と防災の両立への課題が浮き彫りになった。

(1) 災害情報の共有と迅速・的確な情報伝達

災害時や緊急時に、道路や河川等の災害情報が滞りなく共有されるよう、情報公開及び伝達手段を的確にする。

(2) 行政・消防団・自治会及び各種団体の連携

地区防災計画を策定し、それを基にした実行型の訓練を行うことで、行政や消防団、自治会と各種団体の連携を深め、住民意識の向上を図る。

(3) 避難援助組織・防災資材等の充実と人材の確保

避難所運営に関し、地域と行政の関係や各種人材（団員・防災士・消防地区主任）の配置など運営組織のあり方を整理し、必要な防災資材を整える。

2 教育・子育て

子どもに対する過保護・過干渉を心配する声が目立った。

(1) 地域における子どもの交流促進

地域の行事への子どもの参加が減ってしまったが、交流は必要である。

(2) 学校やこども園における対策

制服や給食、登園時間や迎えの際の対応など各種のルールが定められているが、子どもの自律との両立が課題である。また、マスク慣れした中で、素顔を見せることへの心理的影響があることに配慮が必要である。なお、通学路の安全対策はどの地域でも求められている。

(3) 保護者の負担軽減

土日休みの制度が多く、土日勤務の保護者には利用しづらい。一方、家計にとっては、指定カバンや制服などの負担が重くのしかかっている。

3 観光・産業振興

観光や経済が復調の兆しを見せる中、市の施策に対するビジョン・戦略が求められている。

(1) 観光行政の戦略・方向性

「観光・商工振興ユニティプラン」で観光協会に観光戦略室の設置がうたわれているが、分野横断的に策定する戦略は市行政が担うべきである。

(2) 農業政策とまちづくりビジョンの一体性

遊休農地の増加や後継者不足が深刻な一方で、農振規制が開発に大きな影響を与えている。農業政策とまちづくりビジョンの整合を図らなくてはならない。

4 健康福祉

コロナ禍が地域交流の場を奪い、支援を求める人や認知症の方が増えたとの指摘があった。

(1) 民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくり

自治会と連携した横断的取り組みを促進したり、個人情報入手を簡易にしたりなど、民生委員・児童委員が活動しやすい環境づくりが求められている。

(2) 支えあい推進会議の充実

災害時の要援護者の避難体制など、自治体と福祉の横断的連携の構築が必要である。

(3) 高齢者の社会参加の促進

高齢者の社会参加を支えるのが公共交通であるとの視点を大切にすべきである。また、百歳体操には大きな意義がある。感染症禍でもこうした活動が継続できるよう工夫が必要である。

なお、個別の意見については、別紙一覧の通りである。

以上、報告する。

丹波市議会 議会運営委員会